

博士論文

看護師の共感疲労・共感満足、共感、

慈悲心の概念モデル検証

-支援プログラムの開発に向けて-

2021 年度

東京成徳大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻

岸本 久美子

東京成徳大学

論文概要

本研究は、1)看護師の慈悲心尺度の作成、2)看護師の共感疲労・共感満足、共感、慈悲心の関係モデルの検証を目的とした。

研究1では、看護師の慈悲心尺度の作成にあたり、慈悲心の構成要素を抽出することを目的に、看護師 13 名を対象とした面接調査を実施した。研究1で抽出された要素を元に、研究2では看護師の慈悲心尺度の原案を作成し、看護師 672 名を対象とした質問紙調査を行った。また、研究2では作成した尺度の妥当性と信頼性の検討ならびに看護師の共感疲労・共感満足、共感、慈悲心の関係モデルの検討を行った。研究3では、研究2で検討された関係モデルに基づき、看護師の共感疲労・共感満足への支援プログラム原案を作成し、看護師 6 名を対象に介入調査を行った。これらより、以下の結果を得た。

1. 看護師の慈悲心の構成要素として、【自分も他者も大切にできる感情と価値観】【他者の痛みを感じて癒す動機づけ】【内省しながら調節できる穏やかな自己】【おたがい様の関係性】の4つの要素が抽出された。また、看護師の慈悲心を阻害する要素として、【役割意識による他者との隔たり】【他者との比較による嫉妬と妬み】【感情や価値観へのとらわれ】の3つの要素が抽出された。
2. 作成した看護師の慈悲心尺度 (Jihi-Mind for Nurses Scale:JMNS)は4つの下位因子 20 項目となり、因子的妥当性と内的整合性は概ね備わっていることが示唆された。
3. 看護師の共感疲労、共感満足、共感、慈悲心の関連性において、仮説モデルでは共感から共感疲労および共感満足へと関連し、共感に慈悲心が何らかの影響を及ぼしているものと考えていた。しかし、調査の結果より、共感疲労、共感満足、バーンアウトを目的変数とし、慈悲心を媒介変

数,共感的関心,共感的苦痛を説明変数としたモデルが最も適合した。したがって,共感と共感疲労ならびに共感満足に慈悲心が部分媒介となっていることが明らかとなった。

4. 本調査で検討した看護師の共感疲労,共感満足,共感,慈悲心の関連性を踏まえ,共感疲労と共感満足への支援プログラムを作成した。作成した支援プログラムによって,看護師の慈悲心の程度を高めることが示唆された。しかし,共感疲労と共感満足とのバランスを保ち,精神的健康状態を維持するためには個別ケースへのフォローも必要であることが示唆された。また,支援プログラムの日常生活ならびに仕事への般化については,対象者が取り組みやすいエクササイズを毎回設定すること,ドロップアウト率を下げるためには,対象者の特徴に合わせた実施期間の工夫,対象者の年代,プログラム実施経過中の反応を把握しながら関われる仕組みが必要であることが示唆された。